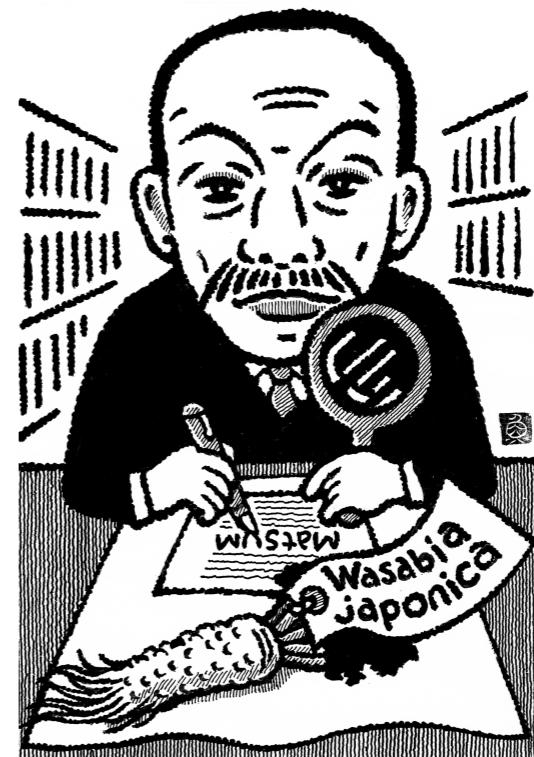


「ソメイヨシノ」や「わさび」の名付け親 まつむら じんそう

高萩市出身



松村任三は、一八五六年（安政三）に今の高萩市下手綱で、水戸藩松岡領中山家家臣松村鉄次郎（後の儀夫）の長男として生まれました。幼い頃からとても優秀で、3歳から漢学を学んでいたそうです。15歳になると、藩の貢^{※2}進生に選ばれ、大学南校（現在の東京大学）に入学し、英語で政治や法律、科学を学びました。任三は21歳の時に退学しますが、高萩には帰らず、漢学を学ぶなどして東京に残つていきました。そこに突然運命の転機が訪れます。

東京大学理学部初代教授の矢田部良吉から声をかけられ、彼の助手になつたのです。矢田部はアメリカ留学から帰国したばかりの気鋭の植物学者であり文学者でもありました。矢田部は、東京大学の附属植物園（旧小石川植物園）の事務担任も兼務していたので、任三は植物園に勤務することになりました。全く畠違の世界に踏み出したのです。

明治以前の日本では植物は主に薬用の側面から研究されていて、任三が植物園に入った時期は、あらゆる植物に研究の目が向けられはじめた黎明期で植物学は最先端の学問でした。矢田部と任三は、日本中を回り植物採集を行いました。

教授となり、研究を続けました。
※3

教授となり、研究を続けました。
「植物解剖学」という新しい分野を作つたり、東京大学
附屬植物園の初代園長を務めたり、百五十種以上の新植
物を発見して学名を付けたり、数々の本を執筆したり
と、近代植物学の発展に力を尽くしました。

※1 漢学：江戸時代の日本における中国伝来の学問の総称。

※2 貢進生(こうじんせい) 各藩から修業が公を数名選て東京へ学ぶせざる専門

〈参考文献〉「郷土史にかがやく人びと」(郷土史にかがやく人びと編集委員会)

「越く茨城の先人たち」(茨城県立歴史館編第1「茨城県生活環境と生活文化調査発行」)
〔世界的の植物学者 松村任三の生涯〕(長久保片雲著/早武忠良発行ほか)

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>